

## 2023年度事業報告書

一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟

### (概要)

2013年（平成25年）4月1日「非営利型の一般社団法人」への移行認可を内閣府より得て新法人として発足、10年が経過しました。その間定款第5条に規定される諸事業を実施して来ております。

新型コロナウイルス感染状況を注視しながら、諸事業を計画していましたが、新型コロナ感染症が2023年5月8日から2類感染症から5類感染症になりました。

引き続き感染防止対策を講じながら事業を進めて、幸いにも参加選手、保護者、役員の皆様の努力と協力を頂いて、無事に予定通りに実施する事が出来ました。

### (事業活動)

#### 事業1. ジュニアヨットクラブの普及活動と競技会開催に関する事業

(定款第5条 第1項 第3号及び第7号)

##### 1. 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2023（和歌山大会）

海外から招待のオーストラリア、ニュージーランドの2チームと、国内は関東、関西近畿、四国から6クラブを迎えて、7月21日（金）から23日（日）、和歌山セーリングセンターを会場に開催しました。

開会式・国際交流会・閉会式も新型コロナウイルス感染症の発症以前の例年通りに実施する事が出来ました

石原伸晃会長も久しぶりにこの国際交流競技会にご出席頂き、開会式、国際交流会でご挨拶を頂きました。

海外2チーム5名、国内6クラブ63名の合計68名の選手、指導者・保護者92名に運営役員50名の合計210名の規模となりました。

競技期間中及びその後も感染症発症や事故もなく無事競技会を開催出来ました。

##### 2. 第33回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウスカップ東京2023）

NPO法人神奈川県セーリング連盟と葉山港で活動されている葉山町セーリング協会の協力を頂いて、前年度と同じ神奈川県立葉山港を会場として、5月21日（日）に、三起商行株式会社様（ミキハウス）の特別協賛と大塚製菓株式会社の協賛を頂き開催しました。

開催方法も前年通り、J S A F、スポーツ庁の指導に沿った大会運営マニュアルに従って、受付、出艇申告・帰着申告、抗議等を全てLINEオープンチャットで行う事、手指消毒等の感染防止対策を実施したので、感染症発症の報告や事故もありませんでした。

ミキハウス様からは例年ご参加頂いている取締役社長室長の光川彰夫様が業務の関係でご欠席でしたが所属のオリンピック選手の須長由季様が参加されて、ご挨拶とご提供の参加賞の授与をお手伝い頂きました。

参加数は、前年度とほぼ同じで、14クラブ、OP級初級者20名、OP級上級者54名、ILCA 4が6名、国際420級8艇16名の選手合計97名となり指導者・保護者96名に、運営役員50名の総勢243名の参加の大会となりました。

今年、JSAFジュニアセーリングシーマンシップアカデミー専属講師の山本悟様をお招きして、レース終了後の閉会式前の時間を利用して、約1時間の講習会を開催しました。テーマは「ジュニアセーリングの優れたコーチングとは」「アクティブプラクティスによるジュニアセーラーの学びの発想、自主性を呼び覚ます！」という、保護者、コーチ、クラブ代表者のとつても大変有意義な講習会でした。

### 3. 第10回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ（ミキハウス杯 大阪2023）

9月3日（日）に、前年度と同じ大阪府貝塚市の二色ハーバーで、三起商行株式会社（ミキハウス）の特別協賛と大塚製薬株式会社、株式会社フォーチュン、ゆうこうマリン株式会社の協賛、大阪府ヨットセーリング連盟の協力を頂いて無事開催しました。懸念された新型コロナの感染状況は落ち着きを見せていましたが、感染防止対策には万全を期して大会に臨み、無事終了しました。

石原伸晃会長も初めてこの大会に参加されて開会式でご挨拶を頂き、表彰式では賞状の授与もお勤め頂きました。

ミキハウス様からは取締役社長室長の光川彰夫様と所属のオリンピック選手の須長由季様が出席されて、ご挨拶とミキハウス様ご提供の参加賞の授与のお手伝いを頂きました。

当初は木村皓一社長もご臨席の予定でしたが、急な業務の為ご欠席となりました。

選手42名の過去最多の前年度と同じ42名の参加があり、OP級上級者クラス21艇、OP級初級者クラス13艇、ILCA 4に5艇、ILCA 6に3艇の内訳でした。

### 4. 第11回ジュニアヨットクラブジャンボリー

5月3日（水・祝）～5日（金・祝）の2泊3日の日程で、宿泊は前回と同じ茨城県立白浜少年自然の家を利用し、活動場所は霞ヶ浦の天王崎公園を会場に、茨城県行方市、茨城県セーリング連盟の後援と、天王崎公園を活動拠点としている麻生ヨットクラブの協力を頂いて開催しました。参加人数は4クラブの選手14名、指導者・保護者等14名合計28名に、麻生ヨットクラブ延べ37名、連盟役員6名でした。

行方市の市長鈴木周也様からは開会式でご挨拶を頂きました。

開催期間中は好天に恵まれて、参加者からは楽しく充実した3日間だったとの評価を頂きました。

### 5. 2023JSAF 海と日本PROJECT セーリングin 霞ヶ浦

海で進行している環境悪化などの現状を、子供たちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団が中心となり、オールジャパンで推進するプロジェクト「海と日本PROJECT」の一環として、公益財団法人日本セーリング連盟（JSAF）主催、行方市教育委員会後援のもと、前年度に引き続き、ジュニアヨットクラブジャンボリーでお世話になっている麻生ヨットクラブ（別称：行方市スポーツ協会セーリング部）にご協力頂いて、当連盟が、運営、実施しました。

7月16日（日）、ジュニアヨットクラブジャンボリー開催と同じ茨城県行方市の霞ヶ浦の天王崎公園を会場に、募集人員を上回る35名（中学生以下の子供22名、大人13名）を対象として、3つのメニューを実施しました。

- ① ディンギー（シカール、シーラーク）セーリング体験
- ② 安全なロープワーク講座
- ③ ライフジャケット着用法と注意点講習

体験イベント終了後に、写真入りの「Start Sailing」認定書を郵送しました。

「霞ヶ浦」を眺めるだけの存在から触れ合う対象として身近に捉えることができた事、水辺のスポーツを楽しむ際の安全や技術に関する知識を深められ事、いろいろな活動に参加する意識を持つ切っ掛けになった等の感想を頂きました。

終了後のアンケートには、セーリングスポーツを続けたい、ヨットに乗りたい、同じようなイベントに参加したいという前向きな回答が大多数でした。

## 事業2. 諸外国との交流・親善に関する事業

(定款第5条 第1項 第4号)

### 1. 外国チームの招聘事業

毎年開催している「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会」に外国チームを招聘し、交流と親善を図っていますが、今年は2カ国、オーストラリア2名、ニュージーランド3名の合計5名の選手と11名の指導者・保護者・同伴児童の計16名に留まりました。

### 2. 海外セーリング研修派遣事業

2024年2月13日（水）～20日（水）、小野澤理事、菅野理事の引率者に、B&G高松海洋クラブの保護者2名と和歌山ジュニアヨットクラブの保護者1名が加わり、3クラブ4名（葉山町セーリング協会、和歌山ジュニアヨットクラブから各1名、B&G高松海洋クラブ2名）でオーストラリアのパスで実施しました。江東区立小中学校セーリング部の1名が発前にインフルエンザに罹り急遽キャンセルとなり残念だったと思います。

子供たちはホームステイが出来ましたが、引率の役員と保護者は市内のホテルでした。毎年のことですが、今年もマツコーリーさん（McAulley）の家族に大変お世話になりました。

### 4. 外国ジュニアヨットクラブとの交流親善事業

日本パラオ親善ヨットレース実行委員会との協力関係に基づき、パラオ共和国でのセーリングの普及のため、指導者の派遣やヨットレースの開催支援その他のサポート活動を検討しましたが、本年度は特に要請もなく活動は行われませんでした。

## 事業3. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

(定款第5条 第1項 第1号、第2号及び第5号)

### 1. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

#### (1) 管理運営及び安全確保に関する指導事業

6月10日（土）開催の2023年度定時総会は対面会議でしたが、例年実施している指導者研修会は実施出来ませんでした。7月の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2023（和歌山大会）開催の時に開会式後に安全講習会を実施しました。

#### (2) 指導者の養成事業

連盟の公認指導員制度については、普及育成委員会より2023年4月1日付での制度廃止の提案があり、同制度の廃止が決定しました。

今後の指導者の養成事業としては、定時総会や競技会その他の各事業の中で、連盟の指導理念（小澤イズム）を各クラブの指導者に浸透させる方策を、普及指導委員会を中心に全役員で考えて行くこととしました。

今年は、5月21日（日）、第33回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ〈ミキハウスカップ東京2023〉を葉山港で開催した際に、JSAFジュニアセーリングシーマンシップアカデミー専属講師の山本悟様をお招きして、講習集会を開催しました。

テーマは「ジュニアセーリングの優れたコーチングとは」“アクティブプラクティスによるジュニアセーラーの学びの発想、自主性を呼び覚ます！”という、保護者、コーチ、クラブ代表者のとっても大変有意義な講習会でした。

### (3) 指導者の表彰事業

当連盟の定款に定める目的及び事業に照らし、その業績が顕著な者或いはジュニアヨットクラブ等の団体を連盟会長名をもって行う表彰制度を、2016年度（平成28年度）から発足しました。

2回の表彰委員会を開催し、5月17日（水）の理事会で表彰者を決定しました。本年度は、6月10日（土）の2023年度定時総会に石原伸晃会長が出席出来ないことから、7月12日（水）、京橋モルチェの会議室にて、石原伸晃会長会長に出席願ひ表彰式を開催しました。

会長表彰として下記の2氏に表彰状と記念品を授与しました。

内田正規氏（麻生ヨットクラブ代表）

岩崎洋一氏（大阪ジュニアヨットクラブ代表）

又、多年にわたり当連盟の発展に寄与された下記の元役員3氏を特別表彰として、表彰状と記念品を授与しました。

中根氏と小野氏は体調不良の為欠席となられたのでご自宅にお送りしました。

安井 清氏（元副会長、顧問、相談役）

中根健二郎氏（元常務理事、常任顧問、相談役）

小野一臣氏（元常務理事、顧問）

公益財団法人日本セーリング連盟の2023年度定期表彰候補者として、当連盟から下記の2氏を推薦し、2024年1月27日（土）日本青年会館ホテルで開催の新年会で、両氏は優秀指導者賞の表彰を受け、表彰状と副賞を授与されました。

笹森俊夫氏（前浅虫ジュニアヨットクラブ代表）

大平邦夫氏（現いわきジュニアヨットクラブ代表）

### 事業4. 広報誌「ユースセーリング」の発行事業

（定款第5条 第1項 第6号）

ジュニアヨットクラブに関する広報活動の内、ホームページによる広報活動は連盟の通常活動として実施しており、従来よりも充実して来ていますが、パソコンでの閲覧以外に子供たちも含めてスマートフォンでの閲覧が増えている状況から、その対応について現在ホームページを管理運営しているオフィスイエロ社にも照会して、鋭意検討を進めており、Facebookの開設も検討しています。

この状況から、紙媒体の広報誌「ユースセーリング」の発行事業については、新しいホームページとFacebookの活用で、より迅速で充実した広報が可能であることから、2024年3月に発行予定の本年度の第92号の発行を中止することとしました。

（会員、クラブの状況その他）

(1) クラブの代表者である正会員は2024年（令和6年）3月31日現在24名、学識経験者である正会員は21名で正会員の合計は45名です。

(2) 登録クラブ数は2024年（令和6年）3月31日現在24クラブです。  
サポーター会員登録者は1名です。

- (3) 特別会員は、アサヒグループジャパン株式会社（アサヒグループホールディングス株式会社が窓口会社として指名し変更されました。）の1企業のみとなりました。  
(2024年（令和6年）3月31日現在）

。

以上